

様式1(主な取組)

活動指標名					R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要			
実績値					実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B						
基幹管路の耐震化率(上水道)									5,459,301	順調	<p>名護浄水場整備(沈澱池設備工事等)、北谷浄水場整備(中間ポンプ工事等)、石川～上間送水管布設工事、水道広域化施設整備等を実施した。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>水道施設の耐震化は順調に進捗している。安全で低廉な水道用水を将来にわたって安定的に供給することが可能となる。持続可能で災害に強い水道の構築が可能となる。</p>		
H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	40.8	42.5	42.8	42.9	43.6				43.8	97.9% (R元年度)
活動指標名					R2年度								
実績値													
活動指標名					R2年度								
実績値													
活動指標名					R2年度								
実績値													
(2)これまでの改善案の反映状況													
令和2年度の取組改善案						反映状況							
<p>・名護浄水場における急速ろ過池の整備など、老朽化施設の改良、更新を進めているところであるが、次年度も、引き続きアセットマネジメント(資産管理)の手法を取り入れ、北谷浄水場ろ過池整備や石川～上間送水管工事など老朽化施設の計画的な更新に取り組み、あわせて耐震化を進める。</p>						<p>・アセットマネジメント(資産管理)の手法を活用した上で老朽化施設の計画的な更新に取り組むとともに、施設の保全、点検を適切に行うことで施設の状態を把握し、優先順位をつけて施設整備計画に反映させた。</p>							



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 本土復帰後、年々増大する水需要に対処するため、水道施設の整備を早急に進めてきた。これらの水道施設の経年化が進み大量に更新時期を迎えるため、計画的な施設の更新が必要である。

○外部環境の変化

・ 島嶼県である本県において、上水道施設が地震等により被災した場合、他府県からの支援等が困難であり、広範囲かつ長期にわたる断水の発生が予測されることから、水道施設の耐震化等が必要である。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ 本土復帰後、年々増大する水需要に早急に対処するため、水道施設の整備を早急に進めてきた。これらの水道施設の経年化が進み大量に更新時期を迎えるため、計画的な施設の更新が必要である。

4 取組の改善案 (Action)

・ 名護浄水場等において、老朽化施設の改良、更新を進めているところであるが、次年度も、引き続きアセットマネジメント(資産管理)の手法を取り入れ、北谷浄水場粒状活性炭池耐震補強工事等や石川～上間送水管工事など老朽化施設の計画的な更新に取り組み、あわせて耐震化を進める。